

実務経験のある教員等による授業科目一覧

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻

対象 学科	科目名	担当教員	担当教員の主な事務 経験	授業内容
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 支 援 学 科 義 肢 装 具 学 専 攻	解剖学	茂木 定之	病院にて医師として 勤務 (1980～2009, 2012 ～2013)	医療福祉分野ならびに各種疾患を学ぶ上で 必要な人体の基本的な構造を系統的に理解 し、知識を修得する。 <u>病院での勤務経験を 活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	解剖学演習	茂木 定之	病院にて医師として 勤務 (1980～2009, 2012 ～2013)	医療福祉分野ならびに各種疾患を学ぶ上で 必要な人体の基本的な構造を模型標本を確 認しながら系統的に理解し、知識を修得す る。 <u>病院での勤務経験を活かし、より実践 的な授業を展開している。</u>
	生理学	茂木 定之	病院にて医師として 勤務 (1980～2009, 2012 ～2013)	内部環境の恒常性の維持に関わる人体機能 において、物質移動、心肺機能、循環動態、 消化器、肝機能、泌尿生殖機能を学習する とともに、骨格筋運動と神経機能について の機能的役割も学習する。 <u>病院での勤務経 験を活かし、より実践的な授業を展開して いる。</u>
	機能解剖学	茂木 定之	病院にて医師として 勤務 (1980～2009, 2012 ～2013)	運動器疾患を中心とした各種疾患に関する 専門的な知識を学ぶ。各種疾患の特徴、診 断基準、保存的治療、外科的治療などを学 ぶ。健康に関心を持つ。解剖学についての 知識を整理し学修する。 <u>病院での勤務経験 を活かし、より実践的な授業を展開してい る。</u>
	リハビリテーシ ョン整形外科学	茂木 定之	病院にて医師として 勤務 (1980～2009, 2012 ～2013)	骨や関節、筋肉などの運動器系について、 リハビリテーション医療で要求される整形 外科に関する基礎的な知識を身につける。 運動器障害に関する診断と治療学を総合的 に理解し、四肢および関節疾患、脊椎疾患 などについて原因、病態などについて理解 を深める。 <u>病院での勤務経験を活かし、よ り実践的な授業を展開している。</u>

実務経験のある教員等による授業科目一覧

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻	病理学概論	茂木 定之	病院にて医師として勤務 (1980～2009, 2012～2013)	疾患の病因・発生機序・経過・予後など、病気に関わる基本的な概念を学修する。病理学的特徴を理解するために必要な検査方法や所見についても学修する。 <u>病院での勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	義肢 I (下腿義足)	月城慶一	義肢装具の製作適合業務 (1992～1994) 義肢パーツメーカーで研究開発業務 (1995～1999)	下腿切断の原因、合併症、失われる機能、切断端の特長、切断後の断端ケア、リハビリテーションについて理解し、下腿義足製作に必要な知識であるソケットの種類や体重支持原理、懸垂方法、アライメント、義足部品、バイオメカニクス等について理解を深め、下腿義足の構成要素やソケットの選択・適合方法、アライメントの調整方法等、実習で必要となる知識を得る。 <u>義肢装具製作会社と義肢パーツメーカーでの勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u>
	義肢 I 実習 (下腿義足)	月城慶一	義肢装具の製作適合業務 (1992～1994) 義肢パーツメーカーで研究開発業務 (1995～1999)	切断端の観察と評価方法、採寸・採型技術、義足の組み立て技術、義足部品の種類別機能を考慮した選択、ソケットの適合技術、アライメントの設定方法等、下腿義足を製作するための技術を習得する。実際の下腿切断者(モデル)の義足を製作する実習を通して仮合わせ、修正、完成、適合判定までの各工程で必要なスキルを習得する。 <u>義肢装具製作会社と義肢パーツメーカーでの勤務経験を活かし、より実践的な実習を展開している。</u>

実務経験のある教員等による授業科目一覧

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻	義肢Ⅱ（義手）	月城慶一	<p>義肢装具の製作適合業務 （1992～1994）</p> <p>義肢パーツメーカーで研究開発業務 （1995～1999）</p>	<p>義手の種類、構造、構成要素について学び、上肢切断の原因、合併症、失われる機能、切断端の特長、切断後の断端ケア、リハビリテーションについて理解する。義手の構成要素やソケットの選択・適合方法、アライメントの調整方法等、実習で必要となる知識を得る。<u>義肢装具製作会社と義肢パーツメーカーでの勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u></p>
	義肢Ⅱ実習（義手）	月城慶一	<p>義肢装具の製作適合業務 （1992～1994）</p> <p>義肢パーツメーカーで研究開発業務 （1995～1999）</p>	<p>義手の種類別機能を考慮した選択方法と適合評価、ソケットの製作・適合技術、アライメントの設定方法、トラブルへの対処法など、義手の製作・適合するために必要な基礎的'知識と技術を習得する。製作実習をすることによってソケットと手先具、ハーネス&ケーブルシステムの製作・適合・調節スキルを習得する。<u>義肢装具製作会社と義肢パーツメーカーでの勤務経験を活かし、より実践的な実習を展開している。</u></p>
	義肢Ⅲ（大腿義足）	月城慶一	<p>義肢装具の製作適合業務 （1992～1994）</p> <p>義肢パーツメーカーで研究開発業務 （1995～1999）</p>	<p>大腿切断の原因、合併症、失われる機能、切断端の特長、切断後の断端ケア、リハビリテーションについて理解し、大腿義足製作に必要な知識であるソケットの種類や体重支持原理、懸垂方法、アライメント、義足部品、バイオメカニクス等について、理解を深め、実習で必要となる知識を得る。<u>義肢装具製作会社と義肢パーツメーカーでの勤務経験を活かし、より実践的な授業を展開している。</u></p>

実務経験のある教員等による授業科目一覧

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻	義肢Ⅲ実習(大腿義足)	月城慶一	<p>義肢装具の製作適合業務 (1992～1994)</p> <p>義肢パーツメーカーで研究開発業務 (1995～1999)</p>	<p>切断端の観察と評価方法、採寸・採型技術、義足の組み立て技術、義足部品の種別機能を考慮した選択、ソケットの適合技術、アライメントの設定方法等、大腿義足を製作するための技術を習得する。実際の大腿切断者(モデル)の義足を製作する実習を通して仮合わせ、修正、完成、適合判定までの各工程に必要なスキルを習得する。 <u>義肢装具製作会社と義肢パーツメーカーでの勤務経験を活かし、より実践的な実習を展開している。</u></p>
	義肢装具基礎工作実習	山田 哲生	(有)松本義肢製作所、(有)垣内義肢製作所において、義肢装具の採型・採寸から製作、義肢装具の適合までの業務に従事(1992～2013)	<p><u>義肢装具の製作に関する基礎的な技術を学び、安全な作業をすることが出来る。材料や工具の特性を理解し、効率的な義肢装具の製作が出来る。</u></p>
	装具Ⅰ	山田 哲生	(有)松本義肢製作所、(有)垣内義肢製作所において、義肢装具の採型・採寸から製作、義肢装具の適合までの業務に従事(1992～2013)	<p><u>整形外科学で学んだ下肢装具における関連疾患の知識修得と下肢装具の役割を理解する。下肢装具の種類・機能などを理解し、それら知識を用いて症例への装具提案及び適合が出来るようになる。</u></p>
	装具Ⅰ実習(下肢装具)	山田 哲生	(有)松本義肢製作所、(有)垣内義肢製作所において、義肢装具の採型・採寸から製作、義肢装具の適合までの業務に従事(1992～2013)	<p><u>下肢装具における製作技術の知識修得と下肢装具の役割を理解する。下肢装具の種類・機能などを理解し、それら知識を用いて症例への装具提案及び適合が出来るようになる。</u></p>

実務経験のある教員等による授業科目一覧

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻	装具Ⅳ(座位保持装置・車椅子)	山田 哲生	有)松本義肢製作所、 (有)垣内義肢製作所において、義肢装具の採型・採寸から製作、義肢装具の適合までの業務に従事(1992～2013)	<u>使用者に適切な車椅子・座位保持装置(シーティングシステム)を供給するために、採寸採型、製作および適合に関する知識を学習させる。この事は対象者の環境整備の一環として重要である。特に在宅高齢者、施設高齢者における適切な座位保持はQOL(生活の質)向上に必要不可欠であり、適切な座圧測定の方法や体幹を含めたトータルでの座位保持の必要性を演習を取り入れながら学修させる。</u>
	関係法規	大窪 伸太郎	有限会社 倉敷義肢製作所の社員として臨床業務に従事(2000-2001)	臨床現場における義肢装具の支給体制など卒業後も即戦力として現場で役立つ情報と国家試験受験を見据えた知識の習得を目指す。
	義肢装具学Ⅰ(理学療法学専攻)	大窪 伸太郎	有限会社 倉敷義肢製作所の社員として臨床業務に従事(2000-2001)	臨床経験に基づいた義肢装具の種類や目的、構造など卒業後も即戦力として現場で役立つ情報と国家試験受験を見据えた知識の習得を目指す。
	装具Ⅱ(体幹装具) (義肢装具学専攻)	大窪 伸太郎 <u>※主担当ではない</u>	有限会社 倉敷義肢製作所の社員として臨床業務に従事(2000-2001)	脊椎疾患・障がいに対応した体幹装具を製作・適合できるようになるために、採型・採寸モデル修正、製作と組立て、および適合と問題解決等の基本技術を習得する。 <u>義肢装具製作所勤務経験に基づいた義肢装具の種類や目的、構造など卒業後も即戦力として現場で役立つ情報と国家試験受験を見据えた知識の習得を目指す。</u>
	装具Ⅱ実習(体幹装具)(義肢装具学専攻)	大窪 伸太郎 <u>※主担当ではない</u>	有限会社 倉敷義肢製作所の社員として臨床業務に従事(2000-2001)	脊椎疾患・障がいに対応した体幹装具を製作・適合できるようになるために、採型・採寸モデル修正、製作と組立て、および適合と問題解決等の基本技術を習得する。 <u>義肢装具製作所勤務経験に基づいた義肢装具の種類や目的、構造など卒業後も即戦力として現場で役立つ情報と国家試験受験を見据えた技術の習得を目指す。</u>

実務経験のある教員等による授業科目一覧

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻	装具Ⅲ(上肢装具) (義肢装具学専攻)	大窪 伸太郎	有限会社 倉敷義肢製作所の社員として臨床業務に従事(2000-2001)	上肢装具の使用目的と種類、適応となる疾患について正しく理解する。それらに合致した装具の設計、製作を的確に行うために必要な理論と知識を修得する。 <u>義肢装具製作所勤務経験に基づいた義肢装具の種類や目的、構造など卒業後も即戦力として現場で役立つ情報と国家試験受験を見据えた知識の習得を目指す。</u>
	装具Ⅲ実習(上肢装具)(義肢装具学専攻)	大窪 伸太郎	有限会社 倉敷義肢製作所の社員として臨床業務に従事(2000-2001)	上肢装具の使用目的と種類、適応となる疾患について正しく理解する。それらに合致した装具の設計、製作を的確に行うために必要な理論と知識を修得する。 <u>義肢装具製作所勤務に基づいた義肢装具の種類や目的、構造など卒業後も即戦力として現場で役立つ情報と国家試験受験を見据えた知識の技術を目指す。</u>
	特殊補装具学(エピテーゼ・足底板応用編)(義肢装具学専攻)	大窪 伸太郎 ※ <u>主担当ではない</u>	株式会社 アシックス スポーツ工科学研究所の研究者としてスポーツ選手の動作分析やスポーツシューズの研究開発に従事(2002-2017)	足底装具(靴型装具)およびエピテーゼ(装飾用義指)に関する知識を学習する。 <u>スポーツシューズの研究開発経験を生かし、近年注目が高まっているスポーツに特化した内容も学習。</u>
	特殊補装具学実習(エピテーゼ・足底板応用編)(義肢装具学専攻)	大窪 伸太郎 ※ <u>主担当ではない</u>	株式会社 アシックス スポーツ工科学研究所の研究者としてスポーツ選手の動作分析やスポーツシューズの研究開発に従事(2002-2017)	足底装具(靴型装具)およびエピテーゼ(装飾用義指)に関する知識と技術を学習する。 <u>スポーツシューズの研究開発経験を生かし、近年注目が高まっているスポーツに特化した内容も学習。</u>

実務経験のある教員等による授業科目一覧

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻	リハビリテーション運動学実習	大窪 伸太郎	株式会社 アシックス スポーツ工科学研究所の研究者としてスポーツ選手の動作分析やスポーツシューズの研究開発に従事(2002-2017)	義肢装具・福祉用具と身体との関わりを理解するため身体運動力学の基礎理論を学修する。 <u>スポーツ選手の動作分析の経験を生かして、様々な工学機器を用いた靱帯の生理反応を分析する手法を学習。</u>
	情報処理演習(義肢装具学専攻)	齋 礼	(株)日立製作所社員として、コンピュータシステム、コンピュータインタフェース分野の研究開発に従事 (1987～2002)	情報リテラシーで学んだ基本的な情報処理技術およびそのプログラミング方法をベースとして、リハビリテーション支援における動作データの取得、蓄積、分析に必要な、一歩踏み込んだ各種情報処理技術及びそのプログラミングを演習形式で修得させる。 <u>ユーザ顧客先でのコンピュータシステム開発経験を活かして、より効率的かつ実践的な授業を展開している。</u>
	バイオメカニクス(義肢装具学専攻)	齋 礼	(株)日立製作所社員として、コンピュータシステム、コンピュータインタフェース分野の研究開発に従事 (1987～2002)	義肢装具、福祉機器、福祉用具をはじめとする、人の健康寿命の延伸のためのものづくりのために必要となる人間の運動/動作の分析方法を学ぶことを目的とする。バイオキネティクスの概念、およびモーションキャプチャを使った運動/動作データの取得方法、および取得データの分析方法について修得する。 <u>特にそのコンピュータプログラミング部分において、コンピュータシステム開発経験を活かして、より効率的かつ実践的なプログラミングが行えるよう授業を展開している。</u>

実務経験のある教員等による授業科目一覧

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻	バイオメカニクス演習（義肢装具学専攻）	齋 礼	<p>（株）日立製作所社員として、コンピュータシステム、コンピュータインタフェース分野の研究開発に従事 （1987～2002）</p>	<p>義肢装具、福祉機器、福祉用具をはじめとする、人の健康寿命の延伸のためのものづくりのために必要となる人間の運動／動作の分析方法を学ぶことを目的とする。バイオキネティクスの概念、およびモーションキャプチャを使った運動／動作データの取得方法、および取得データの分析方法について修得する。<u>特にそのコンピュータプログラミング部分において、コンピュータシステム開発経験を活かして、より効率的かつ実践的なプログラミングが行えるよう授業を展開している。</u></p>
	センサー制御学演習 I（義肢装具学専攻）	齋 礼	<p>（株）日立製作所社員として、コンピュータシステム、コンピュータインタフェース分野の研究開発に従事 （1987～2002）</p>	<p>コンピュータ上で実際にプログラミングを行ってプログラミング技術を習得させ、センサーによる機械動作制御などの応用を含むコンピュータの活用能力を向上させる。本演習ではC、C++等によるプログラミングにより、制御構造、構造化プログラミング、フローチャート、アルゴリズム設計等の基礎を習得させる。総合演習では、プログラミング能力に加え、プレゼンテーションやレポート作成能力の向上も目的とする。<u>特にセンサーを使ったマイコンプログラミングの部分において、電子タグ応用システム開発に従事した経験を活かして、より効率的かつ実践的なプログラミングが行えるよう授業を展開している。</u></p>

実務経験のある教員等による授業科目一覧

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻	センサー制御学演習Ⅱ（義肢装具専攻）	齋 礼	<p>(株)日立製作所社員として、コンピュータシステム、コンピュータインタフェース分野の研究開発に従事 (1987～2002)</p>	<p>センサー制御学演習Ⅰに引き続き、コンピュータ上で実際にプログラミングを行ってプログラミング技術を習得させ、センサーによる機械動作制御などの応用を含むコンピュータの活用能力を向上させる。本演習ではネットワーク上で動作することを強く意識したプログラミング言語として Java 言語を取り上げ、その基本的な文法、特徴、プログラミング手法を理解することを目的とする。<u>特にセンサーを使ったマイコンプログラミングの部分において、電子タグ応用システム開発に従事した経験を活かして、より効率的かつ実践的なプログラミングが行えるよう授業を展開している。</u></p>
	制御工学（義肢装具学専攻）	寺重 隆視	<p>松下電器産業（株）社員として、電子工業分野の研究開発に従事 (1984～1985)</p>	<p>制御工学の基礎について学ぶ。<u>制御系の設計のために必要となる数学的手法や伝達関数など制御理論の基礎内容と、実際に制御系を実現するための電子回路やハードウェアの理解とを目的とする。</u><u>シーケンス制御およびフィードバック制御の概念と構成要素、伝達関数、ブロック線図、周波数特性、ボード線図、特性方程式を用いた安定判別法、演算増幅器について概要を理解し説明できるようになる。</u></p>
	機構学（義肢装具学専攻）	寺重 隆視	<p>松下電器産業（株）社員として、電子工業分野の研究開発に従事 (1984～1985)</p>	<p>機械設計における<u>機構学の役割と位置付けと理解した上で、平面リンク機構、カム機構、摩擦伝動機構、歯車機構などの運動学ならびにその具体的事例を学ぶ。</u>機械の整備等実際の場面を想定するとともに、自動車を始めとする<u>様々な応用分野を紹介する。</u><u>機構ならびに運動について体系的に学修して、新たな機構や機械を創造するための基礎知識を修得するとともに、新しい機械の基本設計ができることを到達目標とする。</u></p>

実務経験のある教員等による授業科目一覧

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻	図学・製図学（義肢装具学専攻）	寺重 隆視	松下電器産業（株）社員として、電子工業分野の研究開発に従事 (1984~1985)	<u>透視・投影法、断面図、三面図など機械製図の図学的手法を学修するとともに、寸法記入法、略画法、公差ならびに各種記号について標準的な機械製図法にもとづいて学修する。図学および製図の意義を理解するとともに、ものづくりの過程の中での図面の役割と目的・機能を理解する。機械製図の図学的手法ならびに機械製図法を修得するとともに自らの意図を収斂させていく設計プロセスならびに設計結果を製作者へ正しく伝達するための技術を修得する。</u>
	装具Ⅰ実習（下肢装具）	谷口 公友	義肢装具製作会社にて義肢および装具の製作適合に従事(2003~2008) 株式会社モルテン健康用品事業本部にて車いす研究開発に従事(2017~2019)	<u>下肢装具における製作技術及び関連疾患の知識修得と下肢装具の役割を理解する。</u>
	義肢Ⅱ（義手）	谷口 公友	義肢装具製作会社にて義肢および装具の製作適合に従事(2003~2008) 株式会社モルテン健康用品事業本部にて車いす研究開発に従事(2017~2019)	<u>義手の種類、構造、構成要素について学び、上肢切断の原因、合併症、失われる機能、切断端の特長、切断後の断端ケア、リハビリテーション、社会復帰後の義手の使用状況について理解する。義手製作に必要な知識であるソケットの種類や支持原理、懸垂方法、アライメント、義主部品、バイオメカニクス等について、理解を深め、義手の構成要素やソケットの選択・適合方法、アライメントの調整方法等、実習で必要となる知識を得る。また義手の採寸・採型から完成までの工程と価格について学習する。</u>

実務経験のある教員等による授業科目一覧
リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻	義手Ⅱ実習（義手）	谷口 公友	義肢装具製作会社にて義肢および装具の製作適合に従事(2003～2008) 株式会社モルテン健康用品事業本部にて車いす研究開発に従事(2017～2019)	義手の種類別機能を考慮した選択方法と適合評価、ソケットの製作・適合技術、アライメントの設定方法、トラブルへの対処法など、義手の製作・適合をするために必要な基礎的知識と技術を習得する。 <u>義手の製作・適合の流れを理解する。</u> 製作実習をすることによってソケットと手先具、ハーネス&ケーブルシステムの製作・適合・調節スキルを習得する。
	装具Ⅳ（座位保持装置・車椅子）	谷口 公友	義肢装具製作会社にて義肢および装具の製作適合に従事(2003～2008) 株式会社モルテン健康用品事業本部にて車いす研究開発に従事(2017～2019)	使用者に適切な車椅子・座位保持装置（シーティングシステム）を供給するために、 <u>採寸採型、製作および適合に関する知識を学習させる。</u> この事は対象者の環境整備の一環として重要である。特に在宅高齢者、施設高齢者における適切な座位保持はQOL（生活の質）向上に必要不可欠であり、適切な座圧測定の方法や体幹を含めたトータルでの座位保持の必要性を演習を取り入れながら学修させる。
	義肢装具基礎工作実習	谷口 公友	義肢装具製作会社にて義肢および装具の製作適合に従事(2003～2008) 株式会社モルテン健康用品事業本部にて車いす研究開発に従事(2017～2019)	義肢装具の製作に関する基礎的な <u>技術を学び、安全な作業をする事が出来る。</u>

実務経験のある教員等による授業科目一覧

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻

リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻	装具Ⅱ（体幹装具）	谷口 公友	<p>義肢装具製作会社にて義肢および装具の製作適合に従事(2003～2008)</p> <p>株式会社モルテン健康用品事業本部にて車いす研究開発に従事(2017～2019)</p>	<p>脊椎疾患に対応した体幹装具のデザイン決定、製作および適合を行えるようになるために、脊椎のバイオメカニクス、疾患学、装具学等の<u>基礎知識を習得する</u>。特に腰痛症に対する装具（コルセットを含む）、脊椎圧迫骨折に対する装具、特発性側彎症に対する装具、脊椎疾患術後に対する装具など<u>各装具の利点欠点を理解したうえで製作できる</u>よう学修させる。</p>
	装具Ⅱ実習（体幹装具）	谷口 公友	<p>義肢装具製作会社にて義肢および装具の製作適合に従事(2003～2008)</p> <p>株式会社モルテン健康用品事業本部にて車いす研究開発に従事(2017～2019)</p>	<p>脊椎疾患・障がいに対応した体幹装具を製作・適合できるようになるために、採型・採寸モデル修正、製作と組立て、および適合と問題解決等の基本技術を習得する。特に腰痛症に対する装具（コルセットを含む）、脊椎圧迫骨折に対する装具、特発性側彎症に対する装具、脊椎疾患術後に対する装具などを作製し、<u>各装具の製作のポイント</u>を習得させる。</p>